令 和 7 年 度 事 業 報 告

(令和 7 年 4 月 1 日から令和 8 年 3 月 31 日まで)

Ⅰ．事業報告および附属明細書

当財団は、昭和 42 年 8 月設立以来、わが国の健康上の課題である「生活習慣病」に関する事業を一貫して展開している。

令和 7 年度は、「医学研究助成」および「健康増進啓蒙活動」事業の更なる効率化と予算の有効活用に注力して、事業活動を行った。

１．医学研究助成

２．健康増進啓蒙活動

３．法人の運営体制の充実を図るための取組

４．附属明細書

令和 7 年度の各事業の実施状況等は、次頁以降のとおりである。

１．医学研究助成

(1) 第 58 回「医学研究助成」

第 58 回医学研究助成は、全国の大学・研究機関の研究者を対象に公募を行い、34 件の推薦応募があり、選考委員会を経て理事会で 20 研究を決定、令和 7 年 9 月 18 日に、１研究につき 100 万円、総額 2,000 万円の助成金を贈呈した。

助成対象者は【別表①】のとおりである。

(2) 第 34 回「医学研究特別助成」

第 56 回（令和 5 年度）医学研究助成入選者の研究報告 20 件を対象とし、選考委員会を経て理事会で 3 研究を決定、第 58 回医学研究助成と同日に、1 研究につき 150 万円、総額 450 万円の助成金を贈呈した。

助成対象者は【別表②】のとおりである。

第 1 回からの助成金合計は 1,236 件、総額 14 億 2,700 万円となった。

＜第 1 回からの助成金累計＞

	令和 7 年度		累　　計	
	件　数	助成金額	件　数	助成金額
医学研究助成	20 件	2,000 万円	1,118 件	12 億 7,700 万円
特 別 助 成	3 件	450 万円	118 件	1 億 5,000 万円
合　　計	23 件	2,450 万円	1,236 件	14 億 2,700 万円

(3) 第 56 回「医学研究助成」研究報告の発表

第 56 回医学研究助成入選者の研究報告を、当財団発行の「医学研究助成研究報告集」に掲載し発表した。

(4) 第 59 回「医学研究助成」（令和 8 年度実施）

令和 7 年 12 月、ホームページに募集要項を掲載した。

また、推薦依頼機関(大学・研究機関)に募集要項を送付し、推薦を依頼した。

第 59 回研究課題は次のとおり。

１．腹膜播種の病態と治療

２．高齢発症てんかんの病態と治療

３．非結核性抗酸菌症の病態と治療

４．蛍光イメージングを含む多様な画像診断技術の開発と臨床応用

＊応募締め切りは令和 8 年 5 月 7 日

【別表①】

第58回「医学研究助成」20研究　総額2,000万円／1研究100万円

研究課題　１．異種移植
　　２．脳卒中超急性期血栓回収治療の長期予後
　　３．摂食嚥下機能障害の原因と対策
　　４．大動脈解離の病態と治療

（課題別五十音順）

研究課題	研　究　者	研　究　主　題
1	自治医科大学 教授　　岩見　大基 他7名	安全な異種移植に向けた異種免疫反応および凝固能の評価系確立
1	横浜市立大学 講師　　國本　博義	異種移植モデルを駆使した難治性白血病のアポトーシス回避・がん細胞生存機構の解明と新規治療戦略基盤の確立
1	北海道大学病院 講師　　後藤　了一 他3名	ヒト化マウスによる異種移植での拒絶反応機序解明の検討
1	大阪大学 特任准教授　斎藤　俊輔 他2名	遺伝子改変ブタから非ヒト霊長類への異種心臓移植と自然免疫系細胞を主とした免疫細胞の関与の検討
1	三重大学 講師　　島田　康人 他2名	37℃適応小型魚ガラルファを用いた希少悪性腫瘍アバターモデルの構築
2	神戸大学 特命助教　池内　佑介 他1名	血栓回収術の血栓遠位血液による代謝・血液ガス解析を用いた脳梗塞長期予後予測因子の探索
2	福井大学 教授　　西山　康裕 他2名	脳梗塞超急性期血栓回収治療患者におけるリポ蛋白　(a)（Lp（a））　と長期予後の関係：福井県多施設共同研究
2	兵庫医科大学 准教授　　野添　匡史 他3名	要介護状態から発症した脳卒中に対する超急性期血栓回収治療後リハビリテーションの長期効果
2	京都府立医科大学 助教　　丸山　大輔 他2名	急性期脳梗塞に対する血栓回収術後の血液脳関門破綻と微小循環障害が長期予後に与える影響の画像的解析
2	国立保健医療科学院 研究員　　森井　康博 他3名	大規模医療・介護連結データを用いた脳卒中超急性期における経皮的脳血栓回収療法後の長期有効性の検討ー有効性および費用対効果の観点からー

研究課題	研　究　者	研　究　主　題
3	日本医科大学 講師　　五十嵐　豊 他4名	多領域データに基づく摂食嚥下障害のリスク因子解明と窒息予防対策への応用
3	国立長寿医療研究センター 副院長　　加賀谷　斉 他2名	嚥下造影検査を用いた錠剤嚥下障害の評価と対策
3	岡山大学 助教　　金　恭平 他1名	パーキンソン病における嚥下障害リスクの非侵襲的予測：歩行力学と腸内微生物叢の統合的解析に基づく新規バイオマーカーの探索
3	広島大学病院 講師　　中森　正博 他2名	パーキンソン病の嚥下障害に対する電子聴診器 AI 解析を用いた嚥下音評価と頸部電気刺激による効果の検討
3	長崎大学 助教　　宮本　大輔	工学的咽頭喉頭部様管腔組織を利用した Ex vivo システムによる薬剤性摂食嚥下障害の発症メカニズムの解明
4	東京科学大学病院 特任助教　新井　洋平 他1名	血液細胞の Y 染色体喪失が大動脈解離の病態を悪くする分子機序とその治療法の解明
4	信州大学 教授　　今村　浩 他3名	急性大動脈解離超早期の病態と初期診療体制に関する研究
4	国際医療福祉大学 准教授　　上田　和孝 他1名	マルファン症候群の大血管合併症の病態解明
4	日本大学 助教　　小嶋　啓介	血管内視鏡による大動脈解離を予測するための大動脈ハイリスク病変の検討
4	国立感染症研究所 研究員　　村方　好子	新規腹部大動脈瘤 （AAA） ・腹部大動脈解離 （AAD） マウスモデルを用いた病態メカニズムの解明と治療法の開発

【別表②】

第34回「医学研究特別助成」3研究　総額450万円／1研究150万円

（第56回（令和5年度）「医学研究助成」研究報告を対象）

研究課題　１．外科技術評価法と向上のための方策
２．新型コロナウイルス感染症の後遺症の病態と治療法
３．発達障がいの病態と治療・ケア（サポート）
４．リアルワールドデータによる臨床研究

（課題別五十音順）

研究課題	研　究　者	研　究　主　題
2	東京大学医科学研究所 助教　　石坂　彩 他3名	腸内細菌叢に着目したCOVID-19 後遺症の病態解明とその治療法の開発
3	福井大学 特命助教　山下　雅俊 他3名	教師なし機械学習を用いた尿中の神経代謝物質による ADHD 児のサブタイプ分類とその神経生物学的基盤の解明
4	佐賀大学 特任教授　田中　敦史 他2名	リアルワールドデータに基づく尿酸低下薬による Cardiometabolic 効果の解明と心血管代謝疾患の抑制を見据えた高尿酸血症治療戦略の策定

２．健康増進啓蒙活動

生活習慣病の予防・啓蒙を目的とした一般参加型の講演会を、大樹生命との共催で開催した。

令和７年　９月 ５日　　横浜市　（大樹生命横浜支社）49 名

内容は、(株）タニタヘルスリンクによる参加者の体組成チェックの機械測定と、その結果数値の解説･健康改善方法（エクササイズ・料理レシピ）など、各々の参加者にとって具体的で分かり易いものとした。

３．法人の運営体制の充実を図るための取組

当財団の設立目的である社会公共の福祉に貢献するための運営体制として、毎年度「コンプライアンス・プログラム」を策定し、法令遵守体制の整備・向上、適正な情報管理の推進、コンダクトリスク排除に向けた対応等に取組んでいます。

また、自律的ガバナンスの充実、透明性の向上を図るため、外部理事・外部監事をそれぞれ選任しています。

４．附属明細書

大樹生命保険株式会社からの当財団への寄付金について、当面見合わせる旨の通知を受け、寄付金休止期間中は、基本財産を取崩して事業を継続することを基本方針とするため、令和８年３月 12 日開催の理事会において、次の議案について決議を行った。
なお、当該議案については同日付で実施した書面による評議員会においても決議された。

令和８年度基本財産の一部処分承認の件

令和８年度事業計画に基づく収支予算書の遂行に不足する資金について、以下の決議を行った。
①基本財産の一部を処分し、経常費用に充当すること
②基本財産の処分の額、方法、時期については、理事長に一任頂くこと